

2023年度 自己点検・自己評価

学校法人未来学園 大阪総合福祉専門学校 日本語教育課程

評価 5：達成 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組み検討中 1：改善が必要

【1】教育の理念・目標

番号	評価項目	評価
1-1	学校の理念、目的・目標が明確となっているか	5
1-2	学校の育成する人材像が明確となっているか	5
1-3	学校の理念、目的・目標が社会のニーズに合致しているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

(1-1～1-3)

ITの発展、交通の利便化により世界中で国際化が促進し、それに伴い日本の専修学校、大学、大学院への留学生が増加している。それらの者が日本において学習するには日本語の理解が不可欠となる。本校は、専修学校・大学・大学院へ進学を希望する留学生が、日常生活はもちろんのこと、研究・学習するために必要な日本語力を習得できるカリキュラムを導入し、積極的に進学を進める。また、将来的に日本の社会に貢献するであろう海外からの留学生に日本語を教育することで、留学生の国際人としての人材育成、ひいては日本国の発展、社会貢献を実現することを目的としている。

本校の日本語学科の学生の多くは、本校の介護福祉学科への進学を希望し介護福祉士の国家資格取得後は日本で介護福祉士として従事することを目標としている。そのため、本校では日本語で不自由なくコミュニケーションを図ることができ、日本の文化や習慣等に深い理解を示す人材を育成する。これらの理念・目標及び育成する人材像は、教職員等に周知されている。

【2】学校運営

番号	評価項目	評価
2-1	学校の運営体制が日本語教育機関の告示基準を満たしているか	5
2-2	学校の理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか	5
2-3	学校の組織運営や人事、財務管理に関する規定や意志決定システム、コンプライアンス体制が整備されているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

(2-1～2-3)

日本語教育機関の告示基準に沿った運営体制を整備し、理念や目的に沿った運営方針や事業が選定され、組織運営、管理されている。また、各種事案については、事務局会議及び教務会議を経て責任者会議で最終決定をするシステムが確立され効率的に機能している。

教職員のコンプライアンス意識を高めるための取り組みも毎年行っており、今後も組織としてより強固に取り組んでいく。

【3】教育活動

番号	評価項目	評価
3-1	教育理念等に沿った教育課程が体系的に編成されているか	5
3-2	成績評価や進級、修了の判定基準は明確となっているか	5
3-3	教育課程や成績評価、進級、修了の判定基準は適切に運用されているか	5
3-4	教員の指導力向上のための取り組みは行われているか	4
3-5	教育課程の改善のための取り組みが行われているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

(3-1～3-5)

<p>学生の成績評価や進級・修了については、学期ごとに行われる成績判定会議により判定される。教務主任は、定期的に各教員の授業を確認し、改善が必要な場合は個別に指導している。また、研修会を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。引き続き教員間の情報や指導技術の共有を進め、授業運営を円滑化し、学生がより良い教育を受けることができるように努めていく。</p> <p>また、日本語学科から介護福祉学科へ進学を希望する学生が多い中、介護福祉学科では特に読解力や発話力が求められる。そのため、それらの日本語能力を1年間で習得できるよう2023年度より新カリキュラムを導入した。今後も学生の習熟度を見ながら教育内容の見直しを定期的に行っていく。</p>

【4】学修成果

番号	評価項目	評価
4-1	学生の日本語能力の向上が図られているか	4
4-2	学生の日本語能力について適切に把握されているか	5
4-3	学生の進路を適切に把握しているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

(4-1～4-3)

<p>2023年度より新カリキュラムを導入した。授業時間数も増え、学生の習熟度も例年より高くなった。学生には日本語能力試験等外部の試験を積極的に受験するよう推奨しており、学校が一括して申し込みを行っている。日本語能力試験等の外部試験の結果も把握しており、入学から卒業までの各学生の学習成績は適切に記録している。また、外部試験の結果は教育内容の改善やクラス編成の際の資料として有効活用している。</p> <p>本校の日本語学科の学生の多くは、日本語学科卒業後は本校の介護福祉学科への進学を希望している。そのため、総合的な日本語能力の向上を図りつつ、日本語能力試験 N2 合格を目指し合格率を上げるために今後も模擬試験等を定期的の実施していく。</p>
--

【5】学生支援

番号	評価項目	評価
5-1	学生に対する学習相談の支援体制が整備されているか	5
5-2	学生に対する進路の支援体制が整備されているか	5
5-3	学生の健康管理について支援体制が整備されているか	5
5-4	学生の日本での生活指導の支援体制が整備されているか	4
5-5	防災や緊急時における体制が整備されているか	3

<現状・具体的な取り組み/課題>

(5-1～5-5)

<p>学生からの質問・学習相談・進路相談等への対応は、担任教員・教務主任を中心に随時行っている。</p> <p>健康診断は年1回実施し、国民健康保険への加入、医療保険への加入(任意)も行っている。日々の健康状態については通学時に確認を行い、通院・入院等治療が必要な学生が生じた際には、生活指導担当者が健康回復まで十分なケアを行う体制を整えている。</p> <p>また、全学生を対象として避難経路・避難場所を定めた避難訓練を年1回実施しているが、2023年度は説明のみの実施となった。</p>

【6】教育環境

番号	評価項目	評価
6-1	学校の施設・設備が十分かつ安全に整備されているか	5
6-2	使用する教材は適切か	5
6-3	学習効率を高めるための環境整備がなされているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

(6-1～6-3)

<p>教室内環境は学習に集中できるように配慮し、学校内のIT教育用機器は整備されている。コロナ禍での経験を踏まえ、いつでもオンライン授業に対応できる教材や資料も準備している。</p>

【7】入学者の募集

番号	評価項目	評価
7-1	入学者の募集は適切に行われているか	5
7-2	入学者募集の際に学校の情報は正確に伝えられているか	5
7-3	授業料等は適切か	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

(7-1～7-3)

<p>入学希望者には、送出し機関を通して理解できる言語で情報を伝えており、書類選考と面接試験等で日本語のレベルチェック、学習意欲や目標、経費支弁状況などを確認した上で受け入れを決定している。</p>

【8】財務

番号	評価項目	評価
8-1	中長期的な財務基盤は安定しているか	5
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものか	4
8-3	財務について会計監査は適切に行われているか	5
8-4	財務情報の公開の体制はできているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

(8-1～8-4)

財務状況は、学校法人として管理されており、中長期的に安定した経営が行われている。また適切な会計監査が実施されている。

【9】法令遵守

番号	評価項目	評価
9-1	出入国管理及び難民認定法及び各種関係法令等の遵守が行われているか	5
9-2	出入国管理及び難民認定法及び各種関係法令等に基づいて適切に運営できているか	5
9-3	個人情報の保護について適切に取り組みがなされているか	5
9-4	自己点検の実施と改善及びその公開を適切に行っているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

(9-1～9-4)

各法令を遵守して適正な運営に努めており、日本語教育機関として「適正校(クラス I)」の認定を受けている。

学生及び教職員の個人情報は、部外者が触れることのないように管理を徹底している。個人情報の保護について今後も適切な情報管理を継続していく。

自己点検・評価は、年1回実施し、課題点に関しては改善できるよう努めている。また、ホームページで公開している。

【10】地域貢献・社会貢献

番号	評価項目	評価
10-1	日本語教育機関の資源や施設を利用して社会貢献・地域貢献を行っているか	2
10-2	学生のボランティア活動への支援、公開講座等の実施などを行っているか	3

<現状・具体的な取り組み/課題>

(10-1～10-2)

ここ数年は、新型コロナウイルス感染予防の観点から外部との交流を行うことがほとんどできなかった。今後は、地域貢献・社会貢献・ボランティア活動への支援等に従事できる体制を構築していく。